

ドゥー・ユー・ノウ ISSHIKI ?

一色

京大名誉教授 喉頭の国際賞名に



英国王立
外科医師会
(本部・ロ
ンドン)が、
のどぼとけ

にある「喉頭」に関する極めて
優れた研究を顕彰する賞とし
て、一色信彦・京都大名誉教授

(81)(形成外科) 写真の名
前を冠した「一色賞」を設けた。
世界的歌手に歌声を取り戻させ
たこともある独自の治療法が評
価された。

日本人の名前が付いた国際賞
は数少ないという。第1回の受
賞者にも選ばれた一色名誉教授
は「このような賞ができて光栄
に思う。これを機に、この賞を
目指す研究者が増え、喉頭学分
野の研究が活発になってほし
い」と喜びを語った。

同医師会が主催する今年の最
先端喉頭科学会で特別講演を行
うため、6月にロンドンを訪れ
た際、関係者から一色賞の設立
と第1回の受賞を告げられ、「大

変驚いた」という。

一色名誉教授は、声帯のある
喉頭の軟骨の形を切開などで変
えて声の高さや強さを変える手
術を提唱。有効性が持続する治
療法がなかった声帯まひや声帯
萎縮、変声障害などの治療がで
きるようになり、世界で広く行
われるようになった。さらに、
最も治療が難しいとされるけい
れん性発声障害の治療にも初め
て成功するなど、音声障害治療
分野での貢献が評価された。

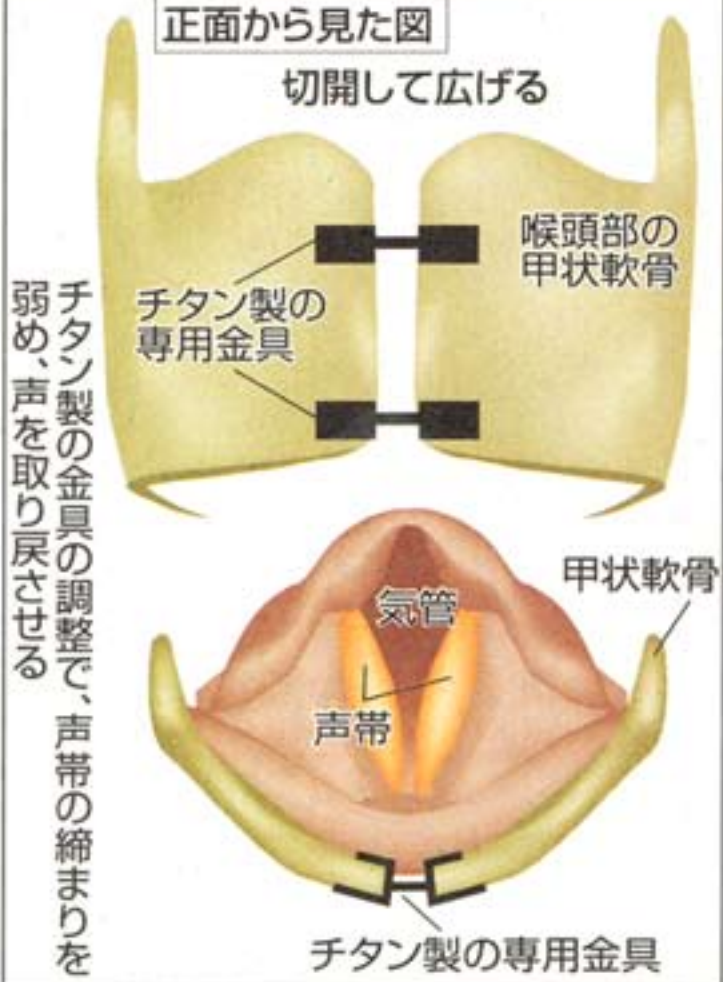
2006年には甲状腺がんの
摘出手術で声を失った韓国人テ
ノール歌手のベী・チェヨル
さんの声帯機能回復手術を行
い、歌声を取り戻すことにも成
功した。

80歳を超えた現在も、現役の
医師として週3人程度手術を行
っているといい「後継者も育っ
ているが、まだ衰えは感じてお
らず、簡単には引退できない」
と意気込んでいる。

◆けいれん性発声障害の治療法

正面から見た図

切開して広げる



チタン製の金具の調整で、声帯の締めまりを
弱め、声を取り戻させる

チタン製の専用金具